
o n e p i e c e ~それは突然やって来る~

白龍の海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

one piece ｝それは突然やって来る｝

【Nコード】

N9779X

【作者名】

白龍の海

【あらすじ】

一人暮らしの主人公は、広すぎる土地を持っていて、いつも通りに学校に行って、自家中型飛行機などで家に帰ると言う、ちょっと変わった生活をしていた。が、ある日家に帰って玄関に入ったら、one pieceの登場人物が居た!?しかも、どんどん増えていく!?と、言うそんな物語。(逆トリップ物語です。)
頑張つて更新します。応援よろしくお願いします。

1 いつも通りの生活を崩した人達（前書き）

なんか、逆トリップ小説書きたくて。
応援おねがいします。

1 いつも通りの生活を崩した人達

俺は、櫻井^{さくらい}海^{かい}。中学生だ。

俺は普通に授業をサボって、ただ、登校してサボって給食を食べて、またサボって下校する。部活は入ってない。授業はつまらない。なんで、分かることをやらなければならない。やるなら、高校の問題か資格の勉強をしたい。だが、普通に生活したい。さあ、何が言いたいか、分かるか？

今、カード式の玄関を開けて、リビングに入ったのだが……
目の前にいる奴は強盗か？だが、one pieceの登場人物のような気もする。いったい、誰の仕業だ？
この、沈黙は嫌いだ。話かけてみるか。

「おい。」

気づかれない。何故だ。

「おい！聞いているのか？」

あ、ルフィだ。

「俺！モンキー・D・ルフィだろ？」お！知ってんのか！？」

「当たり前でしょ！1億の賞金首よ！」

「海賊王目指してるルフィ。」

世界一の剣豪を目指すゾロ。

勇敢なる海の戦士になりたいウソップ。

世界地図を描きたいナミ。

オールブルーを見つけたいサンジ。

真の歴史の本文^{リオ・ポネグリフ}を見つけたいロビン。

「人の家で、勝手に土足で入ったり、喧嘩するなああああ！」

こっちの事も考えてほしいよ!!! ったく。

どんな運命だよ! まあ、にぎやかになるな。つて、どうしたんだろ? 後ろの海兵さん達。

「どうした?」

「ルフィさんとゾロさんだ。」

「あいつ、スゲエよな。」

あれ? 無視されてる? なんで?

人の家で勝手に入って喧嘩して無視されるって

「いい加減にしろおおおおお!!!!!!!!!」

自分の何かが、きれた。

1 いつも通りの生活を崩した人達（後書き）

どうでしょうか。感想書いてくれたら嬉しいです。

後、誤字間違い等があったら、報告してくれると助かります。

次回「なんでこうなった」

2 なんでもこうなった

『いい加減にしろおおおおおおお!!!!!!!!!!』

自分の何かがきれた。

「なんじゃ!うるさい!」

「お前、なんでここに居るんだ?」

自分でも、覇気が出そうなのが分かる。自分は三次元の人間だが、覇気を持っている。

覇気は、【覇神色】の覇気を持っている。この覇気は、霸王色の覇気の倍以上の威力を誇る。だが、見聞色と武装色を持っていない。欠点だと思われるが、特殊能力を持つてるから大丈夫だ。しかも、武装色の代わりは要らない。体質が悪魔を寄せ付けないようになってる。その為、悪魔の実の能力者にとって天敵みたいな印象となる。ハハッ!悪魔の実の能力者ざまぁーーーーー.....。

「なんか、忘れられてるぞ。こいつ。」

「この家の持ち主じゃねえのか!？」

チョッパーの言う通りだよ。

「畏だよ。」

「え!?!?畏なのか!?!」

!!!!

『あー、自己紹介してなかったな。』

「そう言えばしてないわよね。」

『俺は、櫻井 海。14歳。学生だ。この島は日本の物だけど、住んでんのは俺だけだからさ。俺の島みたいな感じになってるけど・・・まあ、そんな感じ。』

海兵「グダグダですよ？」

『今説明なんかしたくない!!!』

だって、面倒じゃん。

「お願いがあるのですが。」

『ん？何？』

「私達はこの世界の事をよく知りません。特に海賊達は。だから、帰れるまでここに居候しても良いですか？」

ん？ちょっと、待った。

『なんで、海賊達なの？』

「正式に言っと、海軍では政府に言わずにここ、三次元を調べています。資格の試験を受けるついでに。」

『え？資格？』

「ええ。たとえば、英検とか。」

『あー、なるほど。』

「で、居候しても？」

『良いよ。仮の部屋いっぱいあるし。ちょっと、待ってな。』

自分の部屋に行く。だって、制服のままだし。後、家の地図？家図？を取りに行かないと。俺は、どこの部屋に何があるか、どれが空き部屋か分かるけど、初めて家に入った人は分からない。ってか、この家は自分で建てたし。そうだ。他の人には使わせないエレベーターで行こう。なんかもう住宅みたいだな。えっと、5階のボタンを押してつと。ちなみに、この島は諸島の一部だ。この島は日本の北海道から東京都までの広さを誇る結構大きい島だ。他の島（諸島）は香川県と同じくらいのが4つと、その半分くらいのが3つある。居候人を除くて、諸島（9つの島）の総人口は1348人。人口密度が低い。諸島には観光なんて無い。

よし、着替えOK。家図持ったからOK。戻ろー。

この時間にも少し話しておこう。この島の大きさはONE PIECEの世界にある、赤い土の大陸アレルソランの1.3倍の大きさだ。はつきり言って向こうは大陸なんて存在しない。どの島も（ONE PIECE）、この島より小さい。

あ、着いた。

『お待たせ〜。』

「お！来た来た！」

「着替えたのか。」

ゾロ、それは誰でも分かるから。

『だって、制服動きにくいもん。』

「まあ、そうですね。」

『あー、スーツか。確かにスーツは動きにくいな。』

スーツは着たこと無いケド……。

ボ「ええ。」

『あ、これ家の地図？だよ。五階まであるけど2階からな。みんなで決める。いいな？コックとかは出来る限り食堂の近くで。』

ボ「分かりました。」

『5・4階は使わない！以上！』

海以外部屋決めの為、話あってる。海は地下一階の資料室に向かっている。

2 なんでもござなつた(後書き)

次回「買い物」

3 買い物物の準備（出航準備）（前書き）

タイトル変えました。

3 買い物準備（出航準備）

居候人達は、部屋決めの為会議っぽい事をしている。
その時、海は地下一階にある資料室に居た。

＝地下一階資料室＝

ここは資料室。俺しかいけないようになってる。ちなみに、地下一階から、地下3階まである。地下一階には、資料室・食料庫。地下二階は薬品倉庫。地下三階はいろいろある。

で、今は2年前に起きた不思議な現象について調べている。この二次元から来た来訪者？が関係している可能性があるからだ。こういう不思議な事を現中学生の俺に資料して送ってくる事が多い。ったく、その時小学生だった俺に送るかよ。

その不思議な現象とは……、
2年前、世界中で異常気候とよく分からない現象が起きた。起きた場所は、日本・中国・北朝鮮・ロシア・イギリス・アメリカ・カナダ・ブラジル・チリ。一番被害が大きいところは、日本・中国・北朝鮮・アメリカ・ロシアだ。紹介しよう。

まず、ロシアは、夏の気温がだんだんヤバシ……すごいことになってる。テレビで報道されるほどだ。暑過ぎて酒を飲んだ人が川で泳ぎ死亡する事故が起こっていた。

次にアメリカ。竜巻の発生数が急激に多くなってる。しかも、規模が大きいため被害も大きい。竜巻が通り過ぎた後は地震で被害にあった被災地みたいな惨状になっているほど。そして、ハリケーンが上陸する回数も2年前が異常だった。

次に北朝鮮。今のところこの頃の飢饉が最悪となっている。今でも飢饉状態が続いているが主に政治関係だが、2年前はそれに自然の飢饉が加わり最悪な状況となった。飢饉により、食物は育たず魚を取ろうとしても港は軍が居るから無理だし川は魚が居ない居るとしても韓国の方へ行かないと無理だった。その為死者数が大変な事になった。

次に中国。チベットとか四川省の辺りで降水量が急激に減り森の木は枯れることは防げたようだが、森以外の木の半数は枯れ、食物は育ったが収穫量が半減してしまった。だが逆に都市部（上海とか北京とか）は降水量が急激に増えた。いきなりだった為下水道に雨水が入りきらず各地で大洪水が起きた。（今のタイの大洪水のような）その為大ダメージを受けた都市部。特に地下鉄は水浸しで逃げ場をなくした人達は緊急経路で半数が逃げ延びたが残りは助からなかった。

最後に日本。夏の悩みと言えば沢山あるが、気候ならゲリラ豪雨と答える人が多いだろう。2年前そのゲリラ豪雨が発生する回数が多くなった年でもあった。ゲリラ豪雨は雷を発生させる。その雷が電線に落ち各地で停電が起きた。幸いほとんどの停電が昼だった為事故回数などは予想より低かったようだ。

だが、停電のせいで工場が大きなダメージを受け、2年前の日本は今より円高が酷かった。

2年前の呼び名は沢山ある。

ロシアは「ロシア内過去最悪の夏の年」。アメリカは「過去最悪異常気象の年」。

北朝鮮は「過去最悪飢饉の年」。中国は「降水量の変化が激しかった年」。

日本は「ゲリラ豪雨と停電の年」。

例に挙げてないイギリスなども同じような現状になっていたようだ。どの国を見ても歴史上最悪の年になった2年前。

これが関係している可能性が極めて高いのだ。

そろそろ、行かなくてはまずい。絶対に待ってる。

「1階オープンスペース」

「あー！やっと来た！待ってたんだぞ！」

『ごめん、ごめん。で、決まった？』

「ああ。おれを含めコックは全員2階にした。海兵の中でどうしても2階がいいと言う奴が居たから、そいつは2階になったがな。ちやんと理由は聞いた。後は3階だ。この家図に書いておいたからさ。行っって見ても良いか？」

『ああ。あ、書き写したんだな。』

「ああ、そうじゃないと迷子になるだろ？」

（1時間後）

「港」

まず、海軍チームが到着。向こうには鉄鋼船なんて無かったから、驚いてるし。（笑）

その、10分後にルフィチーム到着。

全員タンカーに乗り込んだようだ。

『この船・・・小型高速タンカーで日本の千葉県に行く。そこ・・・空き部屋で待つてくれ。だいたい15分くらいで着く。何も騒ぐな。いいな？もう、出航し始めてるからな？ちなみに帆船と違ってあまり、揺れないからな？』

これぐらい言っておかないとまずいっしょ。

少し時間があるから説明しよう。諸島は赤い土の大陸とほぼ同じ位置にある。だから、それを考えて向こうの地図をはめ込むと向こうの世界は狭い事が分かる。

さつき、鉄鋼船を見て驚いているのを面白く見ていたが、俺は帆船を見たことが無い。一度は見たいなーって、思っている。

（15分後）

『着いたぞー！！出て来い！！』

全員千葉県に無事上陸。

「お前、人使いが荒いぞ！」

「お前が言うんじゃないぞええ！」スパーンッ

おお、生ツツコミ見れた。じゃあ、買い物行きますか。

3 買い物物の準備（出航準備）（後書き）

次回「買い物物でハプニング」

4 買い物 1

〓千葉県南房総市〓

ここは、諸島と友好地域の一部の千葉県南房総市。

普通に自動車も電車も通っている。住民もいる。何故、友好地域かというと、こういう人達が来る可能性が高かった為、驚かない人達の所と契約していたのだ。今のように買い物に行くとか。

友好地域は、沖縄県辺野古市・島根県（ほとんどが友好地域）・千葉県南房総市・福島県浪江町・北海道根室市の5つだ。

ル「おおー！！すっげー！！」キラキラ

チヨ「おおおー！！！！」キラキラ

ウ「なんだ！？あれ！！鉄！？」

フ「どんな仕組みで走ってんだよ・・・。」

ナ「よーし！買いまくるわよ！」

「駄目だ！日用品などを買う為に来たんだ！」

ナ「ええ！？駄目なの？」上目遣い

「駄目だ。だいたい金は俺のだ。ったく。ちょっと待ってる。金引き下ろしてくる。」

ナ「いっぱい引き下ろしてきてねー！！」

「ふざけんなあああああ！！！！！てめえはだまってるおおおお
！！！！」

ナ「あんなに怒らなくても・・・。」しよんぼり

「ったく、こつちのことも考えてほしいぜ。」

ウーーン

「あ、局長！いつもの2倍をカードに入れて？」

局「分かったよ。ちよつと、待つてな。」

（4分後）

局「入れたよ。ボーナスも入れたからな。」

「サンキュー！局長！じゃあな！」

局「ああ、気を付けるんだぞ！」

「ああ！」ダダダダダ

局「相変わらず元気だな。海は。さてと、仕事仕事。」

コ「海さん！あれはなんですか？」

は無理か。はあ、なんか嫌な予感がするぜ……。何も無ければいいが。

4 買い物 1 (後書き)

短っ!!!

次回「買い物 2」続々とハプニング事件発生」

5 チーム（前書き）

また勝手にタイトル変えた。

5 チーム

「店の中」

「……………やっぱり、ガープを除いたしっかりした海兵とサンジとチョッパーとロビンとウソップだけにしよう。」

「えーと、ちょっと待て。今から、この店に入って行けない奴を発表する。」

ル「ええええ！？なんでだよー。」

「発表すれば、なんとなく分かる。」

ナ「分かったわ、言ってみて。」

「ガープ、ルフィ、ゾロ、ナミ、フランキー、ブルック。この6人だ。」

ナ「え！？私も！？」

「ああ。」

ボ「海さん。」

「ん？どうした？後、俺は海で良いよ？」

ボ「海、もしかして、問題を起こしそうな人ですか？」

「うん！」

ル「何コソコソ喋ってんだよ！」

ガ「そうじゃ〜！」

「少しは黙れ。今の6人は最後に店に入る。いいな？」

6人「「「「「分かった！」「」「」「」

「6人は、あの休憩場所で待ってもらおうから。ちなみに、守らないと……な？」（ニヤリ）

6人は寒気がし、ぶるぶる震えている。

「あ……ちょっと待って。チーム発表！」

イエーイ！パフパフー！

「最初は、第一〜四部隊とボガード。次に、五〜八部隊。次に整備・船大工とウソップ。次に、医療班とチョッパー。次に、コック（サンジ含）。次に、文官・事務兵とロビン。最後に6人とロビン。」

「よし！第一〜四部隊！最初に行くぞ！」

海兵「はー！」

「あー、やっぱりー気楽に喋って。今は仕事じゃないよ？」

海兵「すみません。じゃあ、遠慮なく。」

ボ「……海、いいのか？」

ははっ！なんでだよ。

「平気、平気ー！」

てーんちよーーうー……！店長……！……！……！開店して……！……！……！

店長「はいはい。」

まあ、少なくとも海兵達（ガープ除）は大丈夫でしょ。

まあ、最後が怖い……。

ルフィは、肉！肉！ってうるさそうだし、ガープは壊しそうだし、ナミは値切りしそうだし、フランキーはなんでも解体しそうだし、

ゾロはウルトラ方向音痴だし、ブルックはパンツ見せても？って言うかもしれないし。

はあ、この6人はなんかもう、大人なの？特に、ブルックとフランキーとガーブ。

まあ、頑張ろう。

え？何を？って？

まず、この6人をなんとかする。次に、まあ、給料だな……。宝くじとか買うか。

まあ、頑張ろう。

なあ、一言良いか？なんだ？これ。

どう見ても、カンペじゃねえの？

なんで、カンペがあるの？ねえ！なんで――――！！

……コホン。今、近所迷惑でした。

5 チーム（後書き）

国語が超苦手の作者です・・・。
最近、テストの点数は上がってきたけど・・・。
やっぱり、苦手のもんは苦手です。
文系じゃないって事で、甘く見てくださいな。

次回タイトル決まっています。

ほな、さいなら。また、次回な。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9779x/>

o n e p i e c e ~それは突然やって来る~

2011年11月12日01時57分発行